

別紙資料目次

別紙資料 1	教職大学院教員資格	p.46
別紙資料 2	一般目標・到達目標	p.47
別紙資料 3	新しい教職大学院における教員配置のイメージ	p.53
別紙資料 4	専任教員が担当する学内の学部・大学院の科目一覧	p.55
別紙資料 5	教職大学院に係る教員の人事交流等に関する覚書	p.59
別紙資料 6	履修モデル	p.61
別紙資料 7	教職大学院等認証評価に係る訪問調査関係資料	p.63
別紙資料 8	独立行政法人教職員支援機構との連携に関する協定書	p.67
附属資料	教育課程連携協議会構成員名簿 教育課程連携協議会構成員就任承諾書	

教職大学院教員資格

教職大学院で学生の指導を行う教員資格の区分とそれぞれに必要な実務経験業績

1	専任実務家教員 研究者教員と連携しながら授業科目と 実習（課題研究）の指導を担当する。	「選考基準に関する申し合わせ」によって別に定め る。
2	専任研究者教員（元実務家） 他の教員と連携しながら授業科目と実 習（課題研究）の指導を担当する。	・5年以上の実務経験を有する。 ・実務を離れて15年以内であること。 ・学部教員資格＋実務経験業績30ポイント以上 ・直近の1年間に①-aの領域の業績を有する。
3	専任研究者教員 実務家教員と連携しながら授業科目と 実習（課題研究）の指導を担当する。	学部教員資格＋実務経験業績10ポイント以上
4	兼任教員 専任教員と連携しながら授業科目を担当する。	学部教員資格＋実務経験業績3ポイント以上

実務経験業績ポイント表

要件	① 学校現場での活動実績が直近の1年以内を含めて定常的にあり、最新の教育事情を踏まえ、 教育実践に関する高い指導力を持っていることを教育委員会等が作成する書類等において確 認できる者
	② 教育実践への有効性を視点としたピアレビューによって評価された業績を有する者

※②の「教育実践への有効性」については、専任実務家教員等からなる委員会を組織しピアレ
ビューによって確認する。

		ポイント	カテゴリ内 最大スコア	期間		
①	a 初等中等教育の諸学校の校内研修における指導・講演（1校 1件とカウント）	2	25	過去5年		
	b 市町村レベル以上の教育委員会・研修センター・研修団体の事業に おいて行った指導・講演等	2				
	c 国の学校教育関連の委員会・審議会等の委員としての活動 （1年1件とカウント）	3				
	d 都道府県・政令市の学校教育関連の委員会・審議会等の委員 としての活動（1年1件とカウント）	2				
	e 市町村の学校教育関連の委員会・審議会等の委員としての活 動（1年1件とカウント）	2				
②	教育実践への有効性が認められる書籍	単著	10	25	過去10年	
		分担	5			
	教育実践への有効性が認められる論文	査読のある 学術誌	単著 第1著者			3
			共著者			2
		大学等紀要	単著 第1著者			2
			共著者			1
			教員向け雑誌			3

【ポイントの計算方法】

①と②のそれぞれのカテゴリにおいて、項目ごとに実務経験業績の件数にポイントの数値を乗じて
得られた数値の合計をカテゴリのポイントとする。それぞれのカテゴリの最大スコアは25ポイント
とする。カテゴリ①とカテゴリ②のポイントを合算したものを実務経験業績ポイントとする。

別紙資料2

一般目標・到達目標

1. [教育課程の編成及び実施に関する領域]

一般目標：学校種別を通じた教育課程の編成・実施の在り方について理解するとともに、学校・学級においてカリキュラム・マネジメントのPDCAサイクルを回すことができるようになる。

授業科目名：「教育課程編成の課題と実践」

到達目標：①学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を述べることができる。②各学校の実情に合わせて具体的にカリキュラム・マネジメントの計画・内容を作成することができる。

授業科目名：「カリキュラム開発の課題と実践」

到達目標：カリキュラム・マネジメントの3側面をふまえ、以下3点を到達目標とする。

①自身の担当教科等を基盤としつつ、他教科・領域等と関連づけた教科等横断的なカリキュラムを構想できる。②カリキュラムの実施過程でのさまざまな事実・データ、学校評価等を活用しつつ、カリキュラムを評価し、具体的な改善案を提案できる。③学校内外のリソースを教育内容と関連づけて組織することができる。以上につき、自身で十全に実践できる力量（キャリア段階Ⅱに対応）、さらにはミドルリーダーとして指導できる力量（キャリア段階Ⅲに対応）をめざす。

授業科目名「横断的・総合的な学習指導の理論と実践A/B」

到達目標：教科横断的・総合的な学習課題にかかわる深い理論的知識を獲得するとともに、汎用的な「資質・能力」の育成を見通した教育課程の計画と評価の方法を言語化することができる。

授業科目名：「特別支援教育におけるカリキュラムデザイン」

到達目標：学習指導要領の内容とその系統性について理解した上で、授業場面で行われている教授行動と学習について説明できる。特別支援教育の教育課程の編成として、各領域と教科の特徴とその合わせ方について、実践と理論を結びつけた理解ができる。学校・学級の特長と子どもの実態に応じて、学習内容の選定と系統的な組織（カリキュラム・マネジメント）について理解することができる。

2. [教科等の実践的な指導方法に関する領域]

一般目標：全教科・各学校種に共通する「教科等の授業」の在り方（「教科」の全体構成、基本的な授業技術、他教科・教科外活動との関係、教科の授業と学問の関係、多様な教育方法、知識と技能との関係、情報機器の利用等）について、体系的に理解する。他教科・他学年の授業との関連を踏まえて、ある特定の授業の構成・立案に関して他の教員に指導・助言が出来る、かつ、その授業の評価を適切に行うことができる。

授業科目名：「授業分析実践」

到達目標：授業を分析・構築するための心理学的および実践的視点を学んだ上で、それらの知見をいかに実際の授業で活用しうるかを検討し、個々が授業案を提案する。さらに、提案された授業案についての分析を全体で行い、改善案を検討する。

授業科目名：「学習支援の理論と実践」

到達目標：教科等の学習活動に直接関与する認知機能等の深い理解に基づいて、指導案を作成し示範授業等を行い、児童生徒の学習状況を適切に評価することが出来る。自分の実践を振り返り、評価・改善することが出来る。また他の教員に対しても理論的な裏付けをもって指導方法についての助言等が出来る。

授業科目名：「教育評価の理論と実践」

到達目標：現職教員が、これまでの評価活動をさらに充実させ、ミドルリーダーとして若手を指導でき、「真正の評価」のために、ルーブリックの作成活動を行えるレベルが到達目標であり、キャリア段階（教員育成指標）では受講者の現職経験によるが最低でもⅡ、教員の経験年数によってはⅢを目指す。

授業科目名：「授業研究の理論と実践」

到達目標：学校において取り組まれる授業研究（Lesson Study）とその基礎といえる授業分析の理論と実践について理解を深めるとともに、特定の教科ではなく、教科横断的に授業を捉えることを意識し、全教科・各学校種に共通する「資質・能力」を育成するための学習指導における教育方法や学習評価について言語化できるようになる。

授業科目名：「道徳教育の理論と実践」

到達目標：①道徳の意義や原理等を踏まえ、学習指導要領に示された学校における道徳教育の目標や内容を述べる事が出来る。②学校の教育活動全体を通じて行う道徳

教育及び道徳科の実践的な指導計画を立て、また道徳科の特質を生かした多様な指導方法を示すことができる。

授業科目名：「特別支援教育における授業実践」

到達目標：授業内の教授行動の分析から、授業と指導計画の基本構造を理解し、説明することができる。授業における基本的な指導技術を身につけ、実施することができる。自らの行った授業の構造ならびに課題とその改善について言語化し、他者に伝えることができる。

3. [生徒指導及び教育相談に関する領域]

一般目標：各学校種における児童生徒等の生徒指導・進路指導上の諸課題を総合的に理解するとともに、その代表的な指導方法（生徒指導、カウンセリング、集団づくり、保護者・関係機関との連携等）について熟知する。児童生徒等が自らの生き方・在り方を考えることを適切に指導・援助するとともに、主体的に進路を選択し、進路先で適応できる力を伸長するための指導・援助について習熟する。

授業科目名：「生徒指導の理論と実践」

到達目標：①生徒指導の意義や原理に基づき、社会的自己実現に向けた自己指導能力を育成する方法を論じることができる。②生徒指導に関連する法律や通知等を踏まえ、事案に対応する方法を示すことができる。③生徒指導課題に対応する組織的生徒指導の進め方を示すことができる。

授業科目名：「子ども理解と支援・指導の理論と実践」

到達目標：一般的な発達や発達障害や教育活動における生徒指導、問題行動について学修し、児童生徒理解に基づく実践のあり方について学ぶ。これらの知識を習得した上で、児童生徒の抱える課題に対応するための実践力を身に着ける。

授業科目名：「特別活動の理論と実践」

到達目標：学級・学年集団の特質を生かし、よりよい人間関係を形成しようとする態度を育む取組の立案ができる。学校の課題や児童生徒を取り巻く環境の変化をとらえ、全校体制による生徒指導を推進することができる。

授業科目名：「特別支援コーディネーターの役割と課題」

到達目標：特別支援教育コーディネーターの役割を理解し、校内支援体制の確立、確かな幼児児童生徒の教育的ニーズの把握、支援計画の立案、相談者の主訴に応じた教

育相談を行うことができる。

4. [学級経営及び学校経営に関する領域]

一般目標：組織としての学校やその基本単位としての学級という組織の在り方について、地域や保護者・他機関等の対外的な関係も含めて総合的に理解することができる。学校において、その実状や特性の把握の上に立って、適切な経営を行う計画を立て、その実施に当たって指導的な役割を果たすことができる。

授業科目名：「学校づくりと学級経営」

到達目標：学級・学年集団の特質を生かし、よりよい人間関係を形成しようとする態度を育む取組の立案ができる。学校の課題や児童生徒を取り巻く環境の変化をとらえ、全校体制による生徒指導を推進することができる。関係する分掌の担当者等と連携を図り、具体的に指示したり提案することができる。工夫改善や精選の視点をもって学校経営に参画したり解決策を提案することができる。保護者や地域等との関わりを深め、必要に応じて関係機関と協働して対応できる。学校の課題を把握し、保護者や地域、関係機関等との協力体制を構築することができる。

授業科目名：「学校経営の理論と実践」

到達目標：学校経営に関する理論的基礎について深い理解を獲得することができる。理論的基礎と学校教育の現実的課題とを架橋する力量を習得することができる。地域教育経営の観点を含んだ学校づくりを指向することができる。

授業科目名：「学校評価とスクールリーダーシップ」

到達目標：学校評価について、「学校評価ガイドライン」や自治体の指針を参考にしつつ、自校におけるデータ収集・分析を先導できる力量を身につける（キャリア段階Ⅱ～Ⅲに対応）。さらに、学校評価結果などのデータをふまえつつ、メンタリング、分散型リーダーシップなどのリーダーシップ理論の知見を活用しながら各分掌の活動をリードするとともに、分掌間の連携を活かして学校のビジョンを実現するため中心的な役割を果たせる力量を形成する（キャリア段階Ⅱ～Ⅲに対応）。

授業科目名：「地方教育行政の理論と実践」

到達目標：学校教育や社会教育を支える地方教育行政の組織及びその運営の在り方についての理解を深めることができる。教育委員会の役割機能について理解し、指導主事、管理主事等の職務の実際を理解しすることができる。

授業科目名：「特別支援教育の制度と学校・学級経営」

到達目標：特別支援学校や特別支援学級の学校・学級経営の基礎となる制度等を理解した上で、業務の遂行に参画することができる。また、他の教員と適切に情報を共有し、授業を含めた優れた学級経営、保護者に対する適切な対応を実践することができる。さらに学級経営に関し、外部の専門家と協働して課題解決にあたり、他の教職員に指導・助言したりすることができる。

5. [学校教育と教員の在り方に関する領域]

一般目標：今日の社会における学校の役割と教員の役割や「よき教育実践を行う教員」の在り方と、教員の資質向上に関する手立てについて具体的に理解する。教育実践者としての自己を反省的に捉えるとともに、様々な考え方を持つ多様な他者とのコミュニケーションを保つ力量を備える

授業科目名：「教員の職能成長と倫理」

到達目標：受講生（実習を含めた）学校現場での実体験や実感を、教育学・教育研究が積み上げてきた蓄積や成果と往還させながら、学校教育の在り方、教員の在り方を検討・再考・確認する。倫理をめぐる基礎的な学問的知見を学んだうえで、教員の専門職倫理につなげていくこと、ライフステージごとの教員育成指標に示されるキャリア段階I・II・IIIで求められている内容に到達することを目標とする。

授業科目名：「教員の倫理」

到達目標：公教育制度およびそれを成立させた教育学がいかなる理念を持っていたかを理解し、それとの比較によって現代社会における学校や教員の役割を分析し、理解すること。

6. [今日的な教育課題に関する領域]

一般目標：今日的な学校教育課題の背景とその実態について理解を深めるとともに、実際の教育活動の場面を省察してより適切な実践のあり方について他の教員と協働しながら探求していくことができる。

授業科目名：「多文化共生教育の課題と実践」

到達目標：言語や文化の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上、または生活上の困難や課題を理解し、それらの解決に向けて保護者や関係機関との連携・協働により組織的な対応を行う力量を形成する。

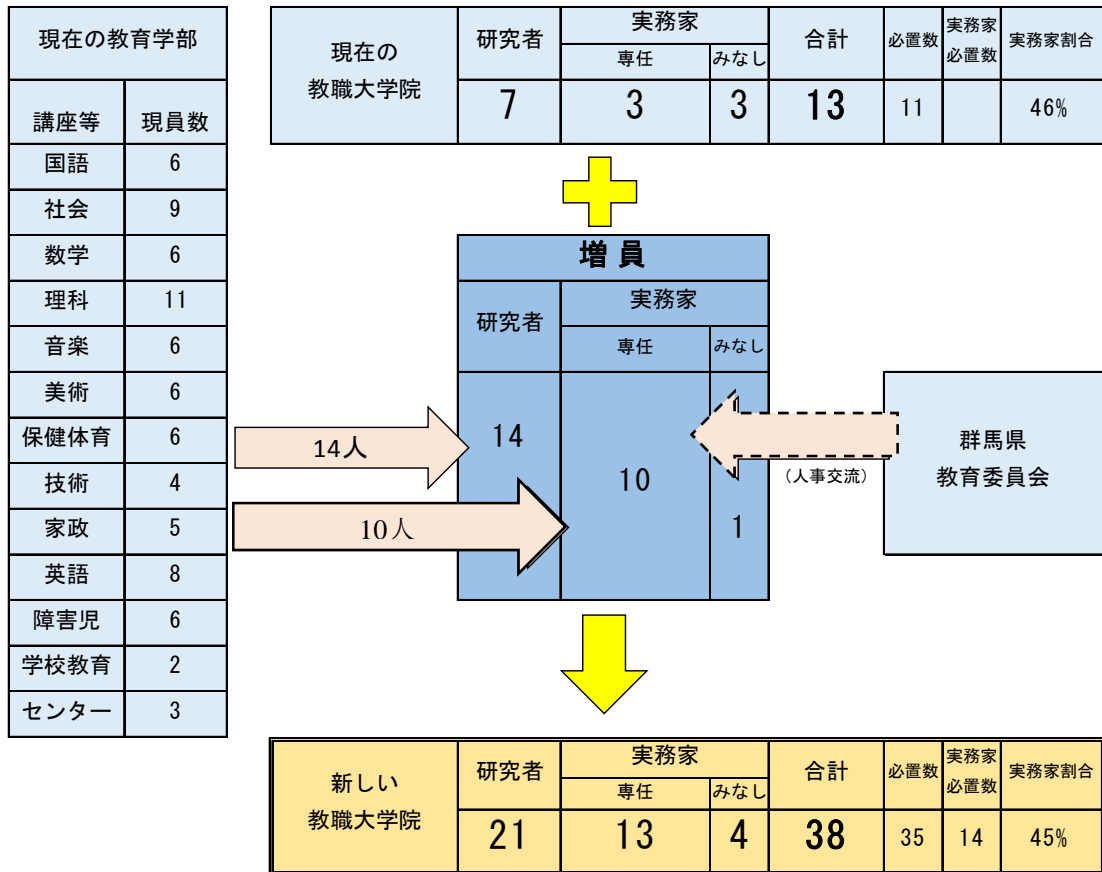
授業科目名：「学校教育におけるICTの実践と課題」

到達目標：・教育の情報科の意義を理解する。・各学校種における適切なICT機器の活用を理解し、授業で活用法を考案することができる。・情報モラル指導の外観を理解し、各学校種における授業で指導法を考案することができる。・校務での情報機器の活用方法を理解している。

授業科目名：「インクルーシブ教育としての学習指導」

到達目標：多様な価値観や存在を受け入れ、ともに活動する学習指導を展開することができる。発達障害や外国にルーツがあるなどマイノリティを抱える児童生徒への個別的な学習指導を実践することができる。発達障害や外国にルーツがあるなどマイノリティを抱える児童生徒を含めた学級での学習指導を実践することができる。

新しい教職大学院における教員配置のイメージ



専任教員が担当する学内の学部・大学院の科目一覧

(教育学研究科学校教育高度化専攻)

順番 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <兼任(予定)年月>	学部の 担当授業科目	担 当 単 位 数	大学院の 担当授業科目	担 当 単 位 数
1	専	教授	上里 京子 (2024.4.1)	学びのリテラシー(1) 初等家庭科指導法 保育学 中等家庭科指導法B 中等家庭科指導法D 教職実践演習(教職)(幼・小・中・高)	2 2 2 2 2 2	実務科学習指導の理論と実践 実務科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践開発研究Ⅰ 授業実践開発研究Ⅱ 授業実践開発研究Ⅲ 授業実践開発研究Ⅳ	2 2 2 8 2 2 2 2
2	専	教授	香山 若穂 (2024.4.1)	総合的な学習の時間の指導法	1	学校づくりと学習指導 特別活動指導の理論と実践 教育アセスメント演習 高度鑑査力・指導力開発実習Ⅰ 高度鑑査力・指導力開発実習Ⅱ 高度鑑査力・指導力開発実践研究Ⅰ 高度鑑査力・指導力開発実践研究Ⅱ 高度鑑査力・指導力開発実践研究Ⅲ 高度鑑査力・指導力開発実践研究Ⅳ	2 2 2 4 6 2 2 2 2
3	専	教授	会澤 貴之 (2024.4.1)	学びのリテラシー(2) 総合科目群 特別支援教育の理論と事例研究	2 2 1	特別支援教育の制度と学校・学級運営 特別支援教育と医療・福祉との連携 特別支援教育実践開発実習Ⅰ 特別支援教育実践開発実習Ⅱ 特別支援教育実践開発実習Ⅲ 特別支援教育実践研究Ⅰ 特別支援教育実践研究Ⅱ 特別支援教育実践研究Ⅲ 特別支援教育実践研究Ⅳ	2 2 2 6 2 2 2 2
4	専	教授	木山 慶子 (2024.4.1)	初等体育科指導法 ダンス 中等保健体育科指導法C 中等保健体育科指導法D 教職実践演習(教職)(幼・小・中・高)	2 1 2 2	保健体育科学習指導の理論と実践 保健体育科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践開発研究Ⅰ 授業実践開発研究Ⅱ 授業実践開発研究Ⅲ 授業実践開発研究Ⅳ	2 2 2 2 2 2 2 2
5	専	教授	佐藤 浩一 (2024.4.1)	学びのリテラシー(1) 保育内容の指導法(音楽) 発達と教育の心理学	2 1	学習支援の理論と実践 高度鑑査力・指導力開発実習Ⅰ 高度鑑査力・指導力開発実習Ⅱ 高度鑑査力・指導力開発実践研究Ⅰ 高度鑑査力・指導力開発実践研究Ⅱ 高度鑑査力・指導力開発実践研究Ⅲ 高度鑑査力・指導力開発実践研究Ⅳ	2 4 6 2 2 2 2
6	専	教授	藤田 治徳 (2024.4.1)	特別支援教育の理論と事例研究	1	インクルーシブ教育としての学習指導 教育実践研究法 特別支援教育コーディネーターの役割と実践 特別支援教育の理論と実践 特別支援教育実践開発実習Ⅰ 特別支援教育実践開発実習Ⅱ 特別支援教育実践開発実習Ⅲ 特別支援教育実践研究Ⅰ 特別支援教育実践研究Ⅱ 特別支援教育実践研究Ⅲ 特別支援教育実践研究Ⅳ	2 2 2 2 6 2 2 2 2
7	専	教授	山口 勝弘 (2024.4.1)	発達と教育の心理学	1	教育評価の理論と実践 高度鑑査力・指導力開発実習Ⅰ 高度鑑査力・指導力開発実習Ⅱ 高度鑑査力・指導力開発実践研究Ⅰ 高度鑑査力・指導力開発実践研究Ⅱ 高度鑑査力・指導力開発実践研究Ⅲ 高度鑑査力・指導力開発実践研究Ⅳ	2 4 6 2 2 2 2
8	専	教授	山崎 雄介 (2024.4.1)	カリキュラム開発とマネジメント	1	カリキュラム開発の理論と実践 学校評価とスクールリーダーシップ 高度鑑査力・指導力開発実習Ⅰ 高度鑑査力・指導力開発実習Ⅱ 高度鑑査力・指導力開発実践研究Ⅰ 高度鑑査力・指導力開発実践研究Ⅱ 高度鑑査力・指導力開発実践研究Ⅲ 高度鑑査力・指導力開発実践研究Ⅳ	2 2 4 6 2 2 2 2
9	専	教授	渡部 希子 (2024.4.1)	小学校英語 初等英語科指導法 異文化理解と言語教育	2 2 2	英語科学習指導の理論と実践 インクルーシブ教育としての学習指導 小学校英語教育の理論と実践 実務科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践開発研究Ⅰ 授業実践開発研究Ⅱ 授業実践開発研究Ⅲ 授業実践開発研究Ⅳ	2 2 2 2 2 8 2 2 2 2

担当 科目	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 < 兼在(予定)年月 >	学部の 担当授業科目	担 当 単 位 数	大学院の 担当授業科目	担 当 単 位 数
10	専	准教授	任 龍在 (2024.4.1)	健康科学科目群 特別支援教育の実践と事例研究	2 1	インクルーシブ教育の理論と実践 特別支援教育実践発見実習Ⅰ 特別支援教育実践発見実習Ⅱ 特別支援教育実践解決実習 特別支援教育実践研究Ⅰ 特別支援教育実践研究Ⅱ 特別支援教育実践研究Ⅲ 特別支援教育実践研究Ⅳ	2 2 2 6 2 2 2 2
11	専	准教授	池澤 陽子 (2024.4.1)	初等体育科指導法 球技A 中等保健体育科指導法A 中等保健体育科指導法C 教職実践演習(教諭)(幼・小・中・高)	2 1 2 2 2	保健体育科学習指導の理論と実践 保健体育科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践研究Ⅰ 授業実践研究Ⅱ 授業実践研究Ⅲ 授業実践研究Ⅳ	2 2 2 8 2 2 2 2
12	専	准教授	特別支援教育 (2024.4.1)	特別支援教育の実践と事例研究	1	特別支援教育におけるカリキュラムデザイン 特別支援教育における授業実践 特別支援教育実践発見実習Ⅰ 特別支援教育実践発見実習Ⅱ 特別支援教育実践解決実習 特別支援教育実践研究Ⅰ 特別支援教育実践研究Ⅱ 特別支援教育実践研究Ⅲ 特別支援教育実践研究Ⅳ	2 2 2 2 6 2 2 2
13	専	准教授	小林(喜嶋) 陽子 (2024.4.1)	学びのリアラシー(2) 初等家庭科指導法 授課実践実習Ⅰ 中等家庭科指導法A 中等家庭科指導法C 教職実践演習(教諭)(幼・小・中・高)	2 2 1 2 2 2	家庭科学習指導の理論と実践 家庭科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践研究Ⅰ 授業実践研究Ⅱ 授業実践研究Ⅲ 授業実践研究Ⅳ	2 2 2 8 2 2 2 2
14	専	准教授	澤田 麻衣子 (2024.4.1)	学びのリアラシー(1) 算数 中等数学科指導法A 中等数学科指導法B 中等数学科指導法D 教職実践演習(教諭)(幼・小・中・高)	2 2 2 2 2 2	算数・数学学習指導の理論と実践 算数・数学科内容構成学 教材研究と授業構想のための数学的基礎 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践研究Ⅰ 授業実践研究Ⅱ 授業実践研究Ⅲ 授業実践研究Ⅳ	2 2 2 2 8 2 2 2 2
15	専	准教授	鈴木 豪 (2024.4.1)	教育方法の実践と事例研究	1	授業実践分析 高度鑑賞力・指導力開発実習Ⅰ 高度鑑賞力・指導力開発実習Ⅱ 高度鑑賞力・指導力開発実践研究Ⅰ 高度鑑賞力・指導力開発実践研究Ⅱ 高度鑑賞力・指導力開発実践研究Ⅲ 高度鑑賞力・指導力開発実践研究Ⅳ	2 4 6 2 2 2 2
16	専	准教授	高橋 望 (2024.4.1)	社会科学科目群 教育の制度と社会 教職実践演習(教諭)(幼・小・中・高)	2 1 2	学校づくりと学校経営 学校経営の理論と実践 地方教育行政の理論と実践 学校組織マネジメント演習 学校危機管理の理論と実践 高度鑑賞力・指導力開発実習Ⅰ 高度鑑賞力・指導力開発実習Ⅱ 高度鑑賞力・指導力開発実践研究Ⅰ 高度鑑賞力・指導力開発実践研究Ⅱ 高度鑑賞力・指導力開発実践研究Ⅲ 高度鑑賞力・指導力開発実践研究Ⅳ	2 2 2 2 2 4 6 2 2 2 2 2
17	専	准教授	中尾(那須) 南子 (2024.4.1)	学びのリアラシー(1) 初等音楽科指導法 中等音楽科指導法B 教職実践演習(教諭)(幼・小・中・高)	2 2 2 2	音楽科学習指導の理論と実践 音楽科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践研究Ⅰ 授業実践研究Ⅱ 授業実践研究Ⅲ 授業実践研究Ⅳ	2 2 2 8 2 2 2 2
18	専	准教授	中村 保和 (2024.4.1)	学びのリアラシー(1) 特別支援教育の実践と事例研究	2 1	遠慮・重複障害教育の事例と実践 特別支援教育実践発見実習Ⅰ 特別支援教育実践発見実習Ⅱ 特別支援教育実践解決実習 特別支援教育実践研究Ⅰ 特別支援教育実践研究Ⅱ 特別支援教育実践研究Ⅲ 特別支援教育実践研究Ⅳ	2 2 2 6 2 2 2 2
19	専	准教授	宮崎(内山) 紗織 (2024.4.1)	初等社会科指導法 中等社会科指導法B 中等社会科指導法C 中等社会科指導法D 教職実践演習(教諭)(幼・小・中・高)	2 2 2 2 2	社会科学学習指導の理論と実践 社会科学内容構成学 社会科の教材研究と授業構想A 社会科の教材研究と授業構想B 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践研究Ⅰ 授業実践研究Ⅱ 授業実践研究Ⅲ 授業実践研究Ⅳ	2 2 2 2 8 2 2 2 2 2

担当 科目	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 < 兼在(予定) 年月 >	学部の 担当授業科目	担 当 単 位 数	大学院の 担当授業科目	担 当 単 位 数
20	専	講師	大島 みずき (2024.4.1)	保育内容の指導法(人間関係) 幼児と人間関係 発達と教育の心理学 幼児理解の心理学	2	子ども理解と支援・指導の理論と実践	2
					1	教育アセスメント講習	4
					1	高度鑑査力・指導力開発実習Ⅰ	6
					1	高度鑑査力・指導力開発実習Ⅱ	2
2	高度鑑査力・指導力開発実習Ⅲ	2					
2	高度鑑査力・指導力開発実習Ⅳ	2					
21	専	講師	小泉 健輔 (2024.4.1)	算数 算数科指導法 中等数学科指導法C	2	算数・数学科学習指導の理論と実践	2
					2	算数・数学科内容構成法	2
					2	教材研究と授業構想のための数学的基礎	2
					2	授業実践開発実習Ⅰ	2
2	授業実践開発実習Ⅱ	8					
2	授業実践開発研究Ⅰ	2					
2	授業実践開発研究Ⅱ	2					
2	授業実践開発研究Ⅲ	2					
2	授業実践開発研究Ⅳ	2					
22	実専	教授	安藤 哲也 (2024.4.1)	幼児と環境 保育内容の指導法(環境) 教職論	1	幼小連携の理論と実践	2
					1	生活科教育の理論と実践 教育実践研究法	2
23	実専	教授	田村 光 (2024.4.1)	学校教育理論 学校教育理論	2	授業実践分析	2
					2	学習支援の理論と実践	2
					2	教育評価の理論と実践	2
					2	高度鑑査力・指導力開発実習Ⅰ	4
2	高度鑑査力・指導力開発実習Ⅱ	6					
2	高度鑑査力・指導力開発実習Ⅲ	2					
2	高度鑑査力・指導力開発実習Ⅳ	2					
24	実専	教授	中尾 敏朗 (2024.4.1)	スポーツ・健康 スポーツ・健康 初等社会科指導法 中等社会科指導法A 中等社会科指導法C 中等社会科指導法D 教職実践演習(教職)(幼・小・中・高)	2	社会科学内容構成法	2
					1	社会科学の教材研究と授業構想A	2
					2	社会科学の教材研究と授業構想B	2
					2	社会科学の教材研究と授業構想C	2
					2	授業実践開発実習Ⅰ	8
					2	授業実践開発実習Ⅱ	8
2	授業実践開発研究Ⅰ	2					
2	授業実践開発研究Ⅱ	2					
2	授業実践開発研究Ⅲ	2					
2	授業実践開発研究Ⅳ	2					
25	実専	教授	野村 晃男 (2024.4.1)	学校教育理論 学校教育理論	2	地方教育行政の理論と実践	2
					2	学校危機管理の理論と実践	2
					2	高度鑑査力・指導力開発実習Ⅰ	4
					2	高度鑑査力・指導力開発実習Ⅱ	6
					2	高度鑑査力・指導力開発実習Ⅲ	2
					2	高度鑑査力・指導力開発実習Ⅳ	2
26	実専	教授	益田 裕光 (2024.4.1)	初等理科指導法 中等理科指導法A 中等理科指導法C 中等理科指導法D 教職実践演習(教職)(幼・小・中・高)	2	理科学習指導の理論と実践	2
					2	教育実践研究法	2
					2	授業実践開発実習Ⅰ	2
					2	授業実践開発実習Ⅱ	8
					2	授業実践開発研究Ⅰ	2
					2	授業実践開発研究Ⅱ	2
2	授業実践開発研究Ⅲ	2					
2	授業実践開発研究Ⅳ	2					
27	実専	教授	吉田 秀文 (2024.4.1)	学びのリテラシー(2) 保育内容の指導法(表現) 音楽表現 初等音楽科指導法 中等音楽科指導法D 教職実践演習(教職)(幼・小・中・高)	2	音楽科学習指導の理論と実践	2
					2	音楽科内容構成法	2
					1	授業実践開発実習Ⅰ	2
					2	授業実践開発実習Ⅱ	8
2	授業実践開発研究Ⅰ	2					
2	授業実践開発研究Ⅱ	2					
2	授業実践開発研究Ⅲ	2					
2	授業実践開発研究Ⅳ	2					
28	実専	教授	吉田 浩之 (2024.4.1)	総合科目群 教育実習事前事後学習 教育実習A(幼小) 教育実習B(幼小) 教育実習(幼)	2	教育課程編成の理論と実践	2
					1	教育実習A(幼小)	2
					5	生活指導の理論と実践	2
					3	教育実践研究法	2
29	実専	教授	吉野 浩之 (2024.4.1)	特別支援教育の理論と事例研究	1	特別支援教育実践開発実習Ⅰ	2
					1	特別支援教育実践開発実習Ⅱ	2
					1	特別支援教育実践開発実習Ⅲ	6
					1	特別支援教育実践開発実習Ⅳ	2
2	特別支援教育実践研究Ⅰ	2					
2	特別支援教育実践研究Ⅱ	2					
2	特別支援教育実践研究Ⅲ	2					
2	特別支援教育実践研究Ⅳ	2					
30	実専	准教授	河内 昭浩 (2024.4.1)	障(仮)のリテラシー(2) 幼児と音楽 小学校国語 初等国語科指導法 中等国語科指導法C 中等国語科指導法D 教職実践演習(教職)(幼・小・中・高)	2	国語科学習指導の理論と実践	2
					1	インクルーシブ教育としての学習指導	2
					2	国語科内容構成法	2
					2	授業実践開発実習Ⅰ	2
					2	授業実践開発実習Ⅱ	8
					2	授業実践開発研究Ⅰ	2
2	授業実践開発研究Ⅱ	2					
2	授業実践開発研究Ⅲ	2					
2	授業実践開発研究Ⅳ	2					

担当 科目	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <兼任(予定)年月>	学部の 担当授業科目	担 当 単 位 数	大学院の 担当授業科目	担 当 単 位 数
	31	専任	准教授 高橋 謙一 (2024.4.1)	初等理科指導法 中等理科指導法B 教職実践演習(教諭)(幼・小・中・高)	2 2 2 2	理科学習指導の理論と実践 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ	2 2 2 2 2 2 2 2
	32	専任	准教授 都可(石川) 明子 (2024.4.1)	学びのリアリティー(1) 保育内容の指導法(表現) 造形表現 図画工作 中等美術科指導法B 中等美術科指導法D 教職実践演習(教諭)(幼・小・中・高)	2 2 1 1 2 2 2 2	図画工作・美術科学習指導の理論と実践 図画工作・美術科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ	2 2 2 2 2 2 2 2
	33	専任	准教授 廣田 秀行 (2024.4.1)	学びのリアリティー(1) 小学校国語 初等国語科指導法 中等国語科指導法A 中等国語科指導法B 教職実践演習(教諭)(幼・小・中・高)	2 2 2 2 2 2 2	授業研究の理論と実践 国語科学習指導の理論と実践 国語科内容構成学 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
	34	専任	講師 小堀 良一 (2024.4.1)	木材加工学 木材加工学演習 中等技術科指導法B 中等技術科指導法C 中等技術科指導法D 工業技術基礎 職業指導論 工業科指導法Ⅰ 工業科指導法Ⅱ	2 1 2 2 2 1 2 2 2	技術科学習指導の理論と実践 学校教育におけるICTの実践と課題 技術科内容構成学 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
	35	専任	専任教授 藤川 武史 (2024.4.1)	—	—	学校づくりと学級経営 子ども理解と支援・指導の理論と実践 特別指導の理論と実践 高度監査力・指導力開発実習Ⅰ 高度監査力・指導力開発実習Ⅱ 高度監査力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度監査力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度監査力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度監査力・指導力開発課題研究Ⅳ	2 2 2 4 6 2 2 2 2
	36	専任	専任教授 木村 謙一 (2024.4.1)	—	—	カリキュラム開発の理論と実践 学校評価とスクールリーダーシップ	2 2
	37	専任	専任教授 立見 康幸 (2024.4.1)	生涯学習概論Ⅰ 社会教育実践研究Ⅱ	2 2	教員の職能成長と倫理	2
	38	専任	専任教授 平林 茂 (2024.4.1)	—	—	学校づくりと学級経営 学校組織マネジメント演習	2 2

教職大学院に係る教員の人事交流等に関する覚書

群馬県教育委員会（以下「教育委員会」という。）と群馬大学大学院教育学研究科（以下「大学」という。）は、2020年4月以降に改組により拡充する群馬大学大学院教育学研究科専門職学位課程（以下「教職大学院」という。）に係る教員の人事交流等について、次のとおり覚書を締結する。

（目的）

第1条 教育委員会と大学は、群馬県の学校教育の充実・発展に資するため、教職大学院に関し相互に連携協力する。大学は、教員養成機能の強化に努めるとともに、現職教員の資質・能力の向上をはじめとする学校教育の課題に取り組む。教育委員会は、大学の実務家教員の採用に協力するとともに、教職大学院において学生として学修する現職教員を大学に派遣する。

（実務家教員候補者の推薦）

第2条 教育委員会は、大学の実務家教員候補者として、次の各号に掲げる者を群馬県市町村教育委員会（以下「市町村教育委員会」という。）との連携のもとに選考し、大学に推薦するものとする。

- (1) 校長経験者 4名
 - (2) 指導主事経験者 3名
- 2 前項により推薦された候補者について、大学は、大学の実務家教員の選考基準に基づき所定の審査を実施の上、第1号に該当する者にあつては原則として教授に、第2号に該当する者にあつては原則として准教授に採用するものとする。
- 3 第1項第2号により推薦され、大学の実務家教員として採用された者の雇用期間は、原則として3年とし、雇用期間終了後は、教育委員会又は市町村教育委員会に復職し、復帰させるものとする。
- 4 実務家教員の給与、勤務時間、服務その他の勤務条件については、国立大学法人群馬大学の就業規則等を適用する。

（教職大学院の学生としての教員の派遣）

第3条 教育委員会が教職大学院で研修させるために派遣する現職教員は、1学年当たり16名を目処とする。

- 2 現職教員の派遣期間は、原則として教職大学院所定の修業年限以内とする。
- 3 派遣期間が2年間となる現職教員は、第1年次には、所属校を離れて教職大学院の授業及び研究に専念し、第2年次には、所属校に勤務しながら、特定の時間及び時期において定期的又は集中的に教職大学院の授業及び研究指導を受けるものとする。なお、これによりがたい事情が生じた場合は、別途協議するものとする。

(有効期間)

第4条 この覚書の有効期間は、覚書締結の日から効力を生じるものとし、教育委員会と大学のいずれかが終了を申し入れない限り継続するものとする。

(補 則)

第5条 2020年4月以降の教職大学院改組日（以下「改組日」という。）の前日から、引き続き実務家教員として大学に雇用されている者は、第2条に規定する派遣教員数に含まれるものとする。

2 前項に規定する実務家教員については、大学に採用された時点で定められた勤務条件が、改組日以降も引き続き適用されるものとする。

3 この覚書に定める事項に変更又は疑義が生じた場合及びこの覚書に定めのない事項については、教育委員会と大学が協議の上、これを決定するものとする。

この覚書は、2通作成し、教育委員会と大学がそれぞれ1通を保有する。

平成31年3月5日

群馬県教育委員会教育長

佐藤 亮



群馬大学大学院教育学研究科長

斎藤 隆

